

## 第二十二回

# 平安神宮古武道奉納演武大会報告

高田 寛次

平成二十六年十月二十六日(日)第二十二回古武道奉納演武大会が、平安神宮額殿に於いて開催されました。

開催に先立ち、本年十月四日「將軍塚山頂青蓮院・青龍殿の落慶法要」が営まれました。国宝青不動明像絵の御開帳を記念し、古武道奉納演武大会に演武される諸先生方八十数名が、本会がチャーターした観光バス二台で青龍殿公式拝観、総裁東伏見慈晃門主自らご多用にも関わらず、青龍殿及び新設された舞台等を詳細に亘りご説明され拝聴し、古武道奉納演武大会の無事を併せ祈願されました。

既にお聞き及びと存じますが、青龍殿と名称が変更されておりますが、以前、「大日本武徳会京都支部旧大正武徳殿」の道場として剣道・柔道を広く市民が利用し親しみ稽古を重ねた時代がありました。七十余年前、小生の学区内にあった事も幸いし、剣道三段を允許され当武徳殿に通い共に汗した懐かしい思い出が残ります。

旧大正武徳殿(青龍殿)は、現在の旧武徳殿を縮小して造作された

建物ではありますが、年々利用する人口も減少し、終には、風雨に晒され外観のみとなり建物自体も朽ち廃墟と化し無残な光景でしたが、貴重な建造物を未来永劫に保存する事を願望され、総裁東伏見慈晃門主がご嘆願の上、將軍塚山頂に移築・見事に復元されました。

清水寺を遥かに凌ぐ大舞台からは、京都市内を眼下に一望でき、京都を起点に世界各国からの拝観者がこの地を訪れ感嘆し、將軍塚山頂より百年・二百年の歳月をお守り頂けることは京都市民としてこの上もない慶びであります。

平安神宮拝殿での祈願が予定の時間を遥かに過ぎ、先生方には大変ご迷惑をお掛けしました事を深謝いたしますと共に、来期には平安神宮側との連絡を密に二度と斯様な失態のなきよう努めて参ります。

当日は季節柄、十三参り・お宮参りなどなど参拝客で混雑し、更に進学合格祈願者に加え特に海外からの旅行者で賑わっております。

古武道奉納演武大会の会場運営等に携わって頂く、武道執行専門委